



BIKE-O & COMPANY

2012.12.1-2013.11.30

2013年11月期 決算説明資料



株式会社バイク王&カンパニー

売上高20,150百万円(2013年11月期)

【バイク小売事業】～第二の収益の柱として育成～

売上高(内部取引消去前)5,401百万円 構成比23.2%

- ・直営小売店「バイク王ダイレクトSHOP」を展開
主に「バイク王」において買い取った中古バイクを
「バイク王ダイレクトSHOP」もしくは WEBを通じて販売
- ・WEBショップ「バイク王パーツSHOP」でバイクパーツ
を販売

【駐車場事業】～バイクユーザーの利用環境整備～

売上高(内部取引消去前)779百万円 構成比3.3%

- ・バイク駐車場、自動車駐車場、
バイクと自動車の併設駐車場等を展開

【バイク買取事業】～当社のコアビジネス～

売上高(内部取引消去前)17,142百万円 構成比73.5%

- ・買取専門店「バイク王」を全国に展開
TV、WEB等の各媒体で広告活動を展開し、バイクを買取・仕入
これらを主にバイクオークションを通じて売却、一部を当社運営の小売店にて販売

【個別】	2013年11月期（累計）業績の概況	P.4
【セグメント別】	2013年11月期（累計）業績の概況	P.12
【個別】	2013年11月期（累計）財政状態	P.17
【個別】	2014年11月期 通期見通し/配当について	P.20
【参考資料】	今後の展開、会社概要、ビジネスモデル等	P.26

注 原則として表示金額については百万円未満切捨てで表示しております。

■本資料における前期【みなし連結】の記載につきまして

当社は、2012年3月1日付で当社を存続会社、連結子会社である株式会社パーク王を消滅会社として吸収合併し、非連結会社となりました。このため、2012年11月期第2四半期決算から非連結決算【個別】へ移行しております。

本資料では、事業の継続性の観点から、一部ページで2012年11月期(累計)の個別実績に1Qパーク王の実績を単純合算したみなし連結を記載しております。



BIKE-O
&COMPANY

【個別】2013年11月期（累計）業績の概況

【セグメント別】2013年11月期（累計）業績の概況

【個別】2013年11月期（累計）財政状態

【個別】2014年11月期 通期見通し/配当について

【参考資料】今後の展開、会社概要、ビジネスモデル等

決算のポイント

【個別】売上高	20,150百万円	前年同期比	3.0%減	(▲617百万円)
経常利益	269百万円	前年同期比	-	(+362百万円)

● バイク買取事業 ⇒詳細はP.13参照

- ・販売台数：前年同期比10.0%減
- ・平均売上単価：前年同期比4.1%増、平均粗利額：前年同期比4.5%増
- ・販売費及び一般管理費の抑制に努め、経常利益は赤字幅縮小

● バイク小売事業 ⇒詳細はP.15参照

- ・第二の成長の柱であるバイク小売事業の売上高は前年同期比10.8%増

● 駐車場事業 ⇒詳細はP.16参照

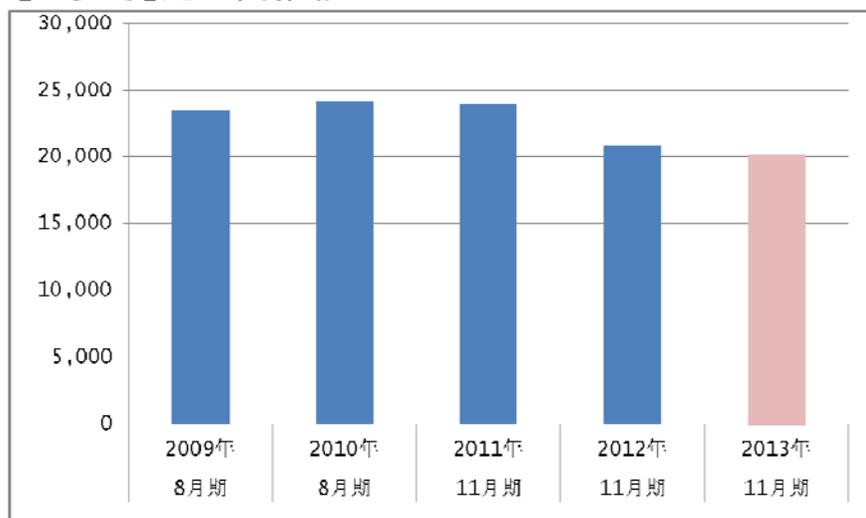
- ・料金改定、事業地開発を推進し、売上高は前年同期比10.0%増
-

2013年11月期（累計） 損益計算書

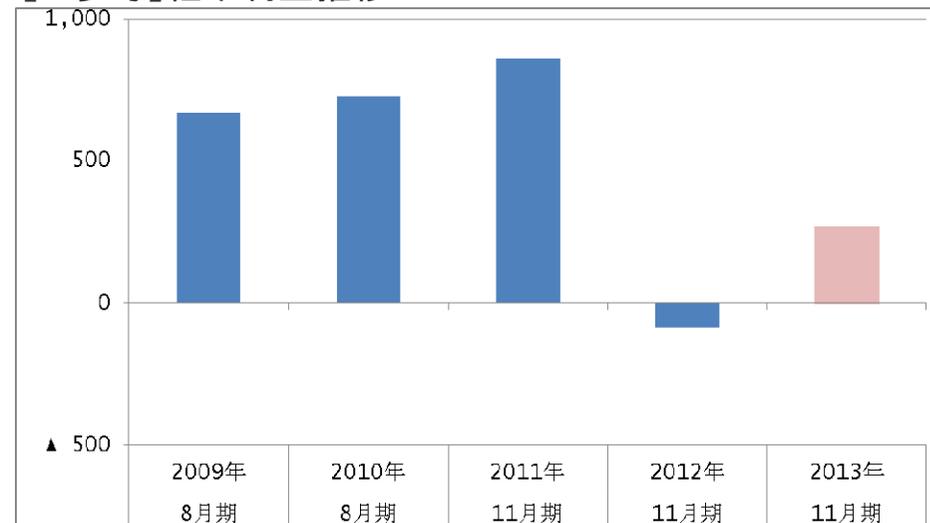
(単位:百万円)

	2012年11月期 (累計)【個別】		2013年11月期 (累計)【個別】		増減額	増減率	【参考】2012年11月期 (累計)【みなし連結】	
	金額	百分比	金額	百分比			金額	増減率
売上高	20,768	100.0%	20,150	100.0%	▲ 617	▲ 3.0%	20,935	▲ 3.8%
売上原価	9,566	46.1%	9,259	45.9%	▲ 307	▲ 3.2%	9,722	▲ 4.8%
売上総利益	11,201	53.9%	10,891	54.1%	▲ 309	▲ 2.8%	11,213	▲ 2.9%
販管費	11,429	55.0%	10,770	53.5%	▲ 658	▲ 5.8%	11,448	▲ 5.9%
営業利益	▲ 227	▲ 1.1%	120	0.6%	348	-	▲ 234	-
経常利益	▲ 92	▲ 0.4%	269	1.3%	362	-	▲ 97	-
当期純利益	▲ 62	▲ 0.3%	94	0.5%	156	-	▲ 67	-

【ご参考】売上高推移



【ご参考】経常利益推移



注1 2010年11月期は決算期変更(8月⇒11月)にともなう3ヶ月決算のためグラフを省略しております。

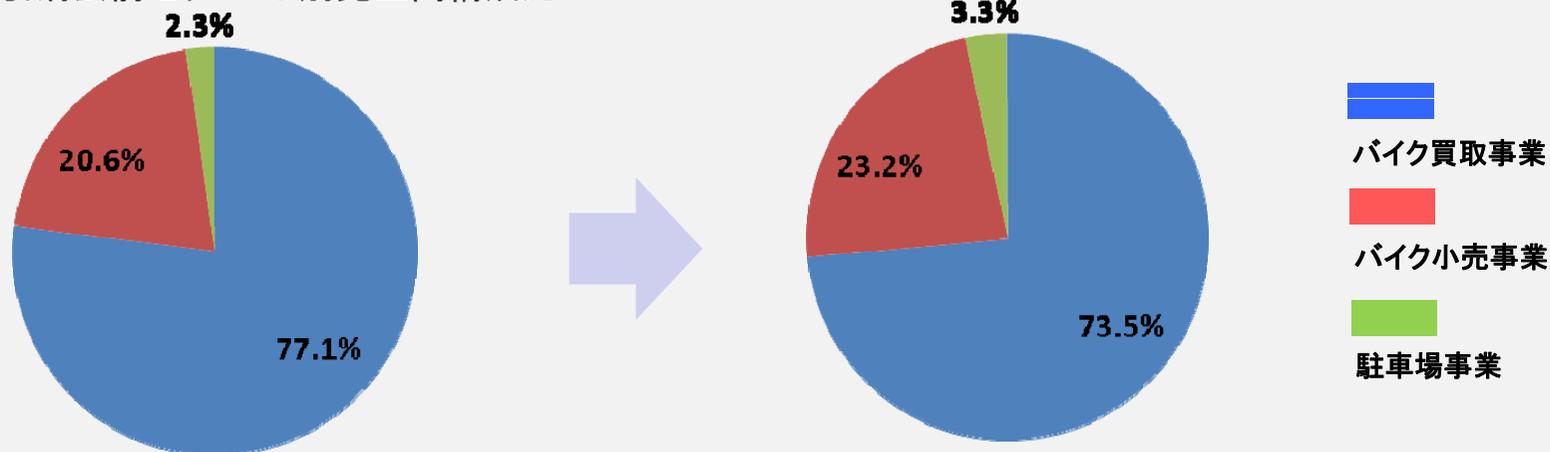
注2 2012年11月期2Qより非連結決算に移行しております。

2013年11月期（累計）セグメント別売上高

(単位:百万円)

	2012年11月期 (累計)【個別】		2013年11月期 (累計)【個別】		増減額	増減率	2012年11月期 (累計)【みなし連結】	
	金額	構成比	金額	構成比			金額	増減率
売上高	20,768	-	20,150	-	▲ 617	▲ 3.0%	20,935	3.8%
バイク買取事業	18,232	77.1%	17,142	73.5%	▲ 1,090	▲ 6.0%	18,232	▲ 6.0%
バイク小売事業	4,876	20.6%	5,401	23.2%	524	10.8%	4,876	10.8%
駐車場事業	541	2.3%	779	3.3%	238	44.1%	709	10.0%
内部消去	▲ 2,882	-	▲ 3,172	-	▲ 290	-	▲ 2,882	-

■ 内部取引消去前セグメント別売上高構成比



2012年11月期【個別】

2013年11月期【個別】

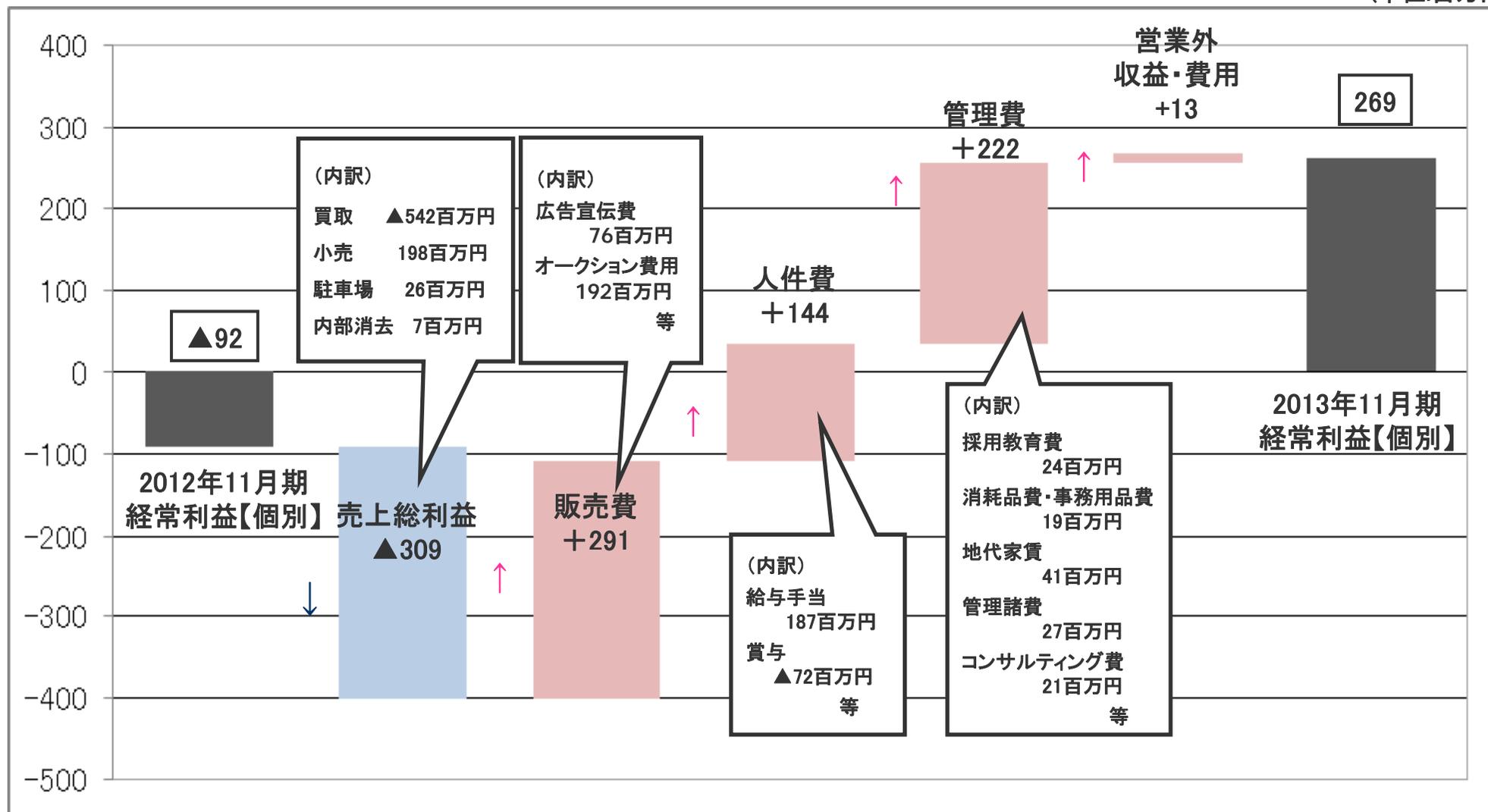
効率化への取り組み



前年同期比 658百万円のコスト削減

2013年11月期（累計） 経常利益増減分析(前年同期比)

(単位:百万円)

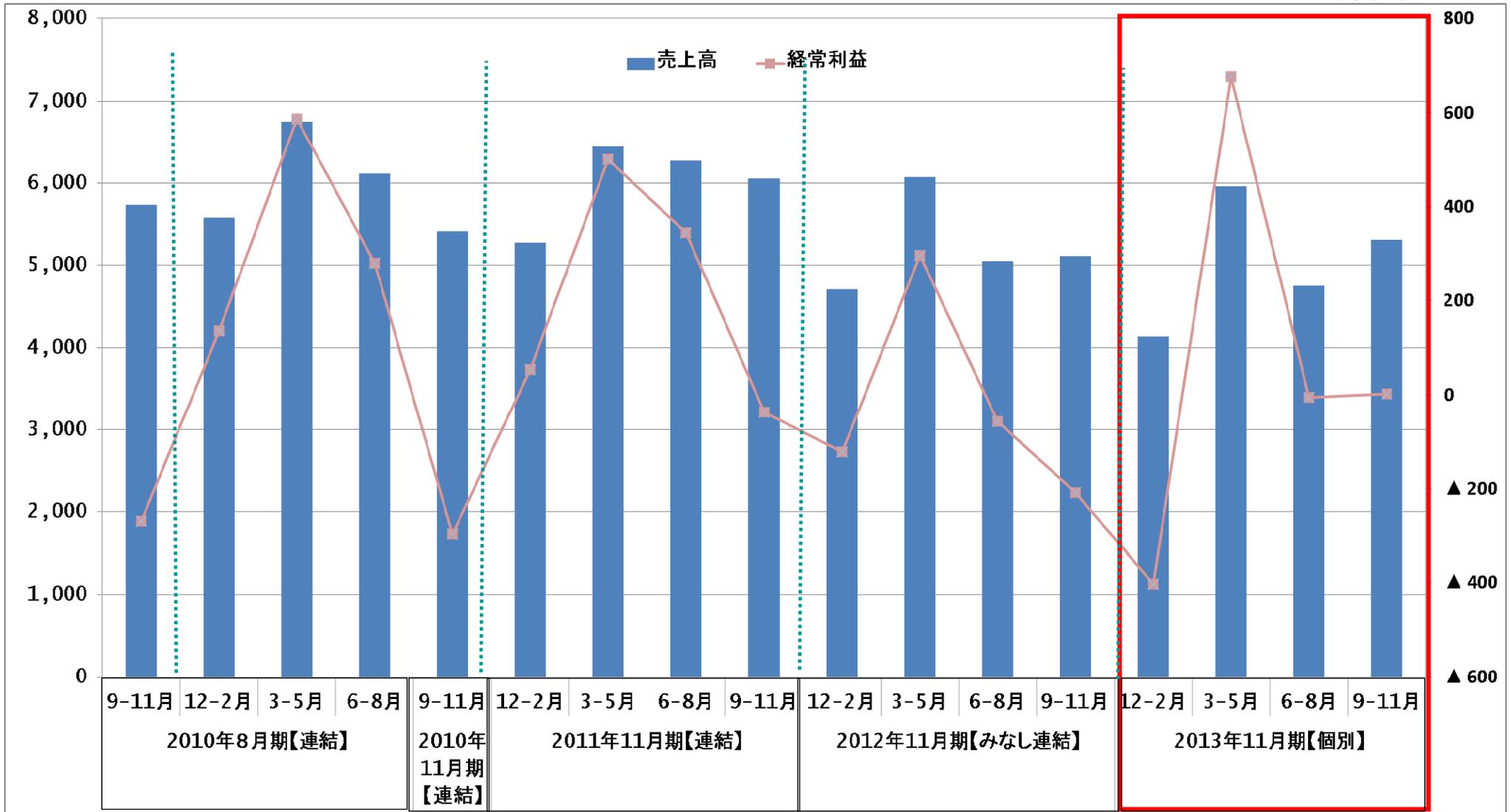


注1 販売費及び一般管理費の+(プラス)は削減を意味しております。

注2 広告宣伝費には広告制作費、販売促進費が含まれております。

四半期毎の売上高&経常利益

(単位:百万円)



四半期毎の業績



(単位:百万円)

	2011年11月期 【連結】				2012年11月期 【みなし連結】				2013年11月期 【個別】			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	5,275	6,450	6,277	6,052	4,706	6,070	5,052	5,107	4,128	5,962	4,749	5,310
バイク買取事業	4,746	5,817	5,525	5,424	4,196	5,385	4,310	4,340	3,503	5,136	3,953	4,548
バイク小売事業	757	946	1,229	1,030	843	1,294	1,387	1,352	1,080	1,462	1,481	1,377
駐車場事業	144	155	174	169	167	175	179	185	177	193	201	206
内部消去	▲ 372	▲ 468	▲ 652	▲ 572	▲ 501	▲ 785	▲ 824	▲ 770	▲ 632	▲ 830	▲ 887	▲ 821
売上原価	2,464	2,757	2,936	3,059	2,227	2,650	2,410	2,434	1,973	2,478	2,143	2,663
売上総利益	2,811	3,693	3,340	2,992	2,479	3,419	2,641	2,672	2,155	3,483	2,605	2,646
販売費及び一般管理費	2,795	3,196	2,996	3,046	2,647	3,157	2,736	2,906	2,605	2,845	2,641	2,678
営業利益	15	496	344	▲ 54	▲ 168	262	▲ 95	▲ 233	▲ 449	637	▲ 35	▲ 31
経常利益	54	501	344	▲ 38	▲ 114	286	▲ 58	▲ 211	▲ 403	677	▲ 6	2
四半期純利益	55	247	198	▲ 60	▲ 87	267	▲ 98	▲ 148	▲ 257	405	▲ 16	▲ 37

売上高季節占有率	21.9%	26.8%	26.1%	25.2%	22.5%	29.0%	24.1%	24.4%	20.5%	29.6%	23.6%	26.4%
経常利益季節占有率	6.4%	58.1%	39.9%	▲4.4%	—	—	—	—	▲149.7%	251.0%	▲2.3%	1.0%



BIKE-O
&COMPANY

【個別】2013年11月期（累計）業績の概況

【セグメント別】2013年11月期（累計）業績の概況

【個別】2013年11月期（累計）財政状態

【個別】2014年11月期 通期見通し/配当について

【参考資料】今後の展開、会社概要、ビジネスモデル等

【バイク買取事業】 2013年11月期（累計）業績の概況

◇今期方針:メインターゲットである手放し層への訴求の強化と、経常損益の黒字化を図る

■販売台数が減少し、前年同期比で減収となったものの、販管費の抑制により赤字幅縮小

● 売上高：販売台数の減少等により、前年同期比6.0%減

【販売台数】

・ 1Qでアポイント率・成約率が下落、3Q以降高収益車輛の獲得を優先して推進

【平均売上単価・平均粗利額の回復要因】

・ オークション相場:1Qは前年同期を下回ったものの、2Q以降回復基調で推移。

相場の回復基調を背景に、高収益車輛の獲得施策を推進した結果、平均売上単価、平均粗利額は前年同期並みに回復

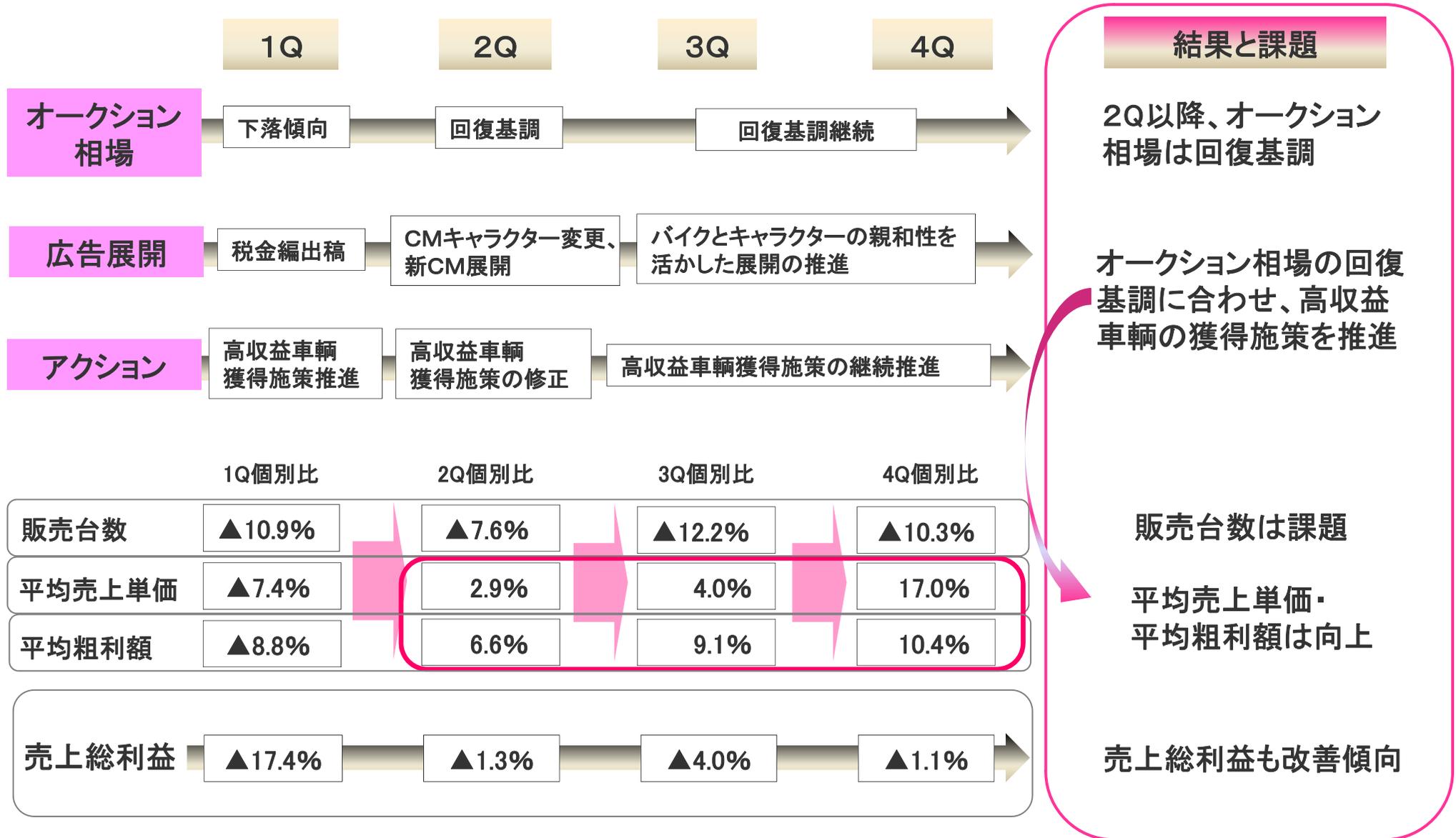
● 経常利益：店舗の統廃合(16店舗)等、販売費及び一般管理費の抑制を推進し、前年同期比179百万円増

(単位:百万円)

	2012年11月期 (累計)	2013年11月期 (累計)	増減額	増減率
売上高	18,232	17,142	▲ 1,090	▲ 6.0%
経常利益	▲ 251	▲ 72	179	-
広告宣伝費	3,405	3,335	▲ 70	▲ 2.1%
買取成約率	84.7%	82.0%	▲ 2.7%	
販売台数(台)	144,004	129,601	▲ 14,403	▲ 10.0%
平均売上単価(円)	124,562	129,608	5,046	4.1%
平均粗利額(円)	66,345	69,336	2,991	4.5%

注 広告宣伝費には広告制作費、販売促進費が含まれております。

【バイク買取事業】2013年11月期の取り組み(前年同期比)



【バイク小売事業】2013年11月期（累計）業績の概況

◇今期方針：収益性向上を図りながら、事業規模を拡大させる

■既存店が好調に推移するとともに、前期出店店舗の通期貢献により、前年同期比で増収・増益

● 売上高 前年同期比 10.8%増（524百万円）

平均売上単価はほぼ前年並み、販売台数が好調に推移

● 経常利益 前年同期比 136.2%増（168百万円）

販売台数増、平均粗利額増により売上総利益が増加

●16期において新規出店2店舗を計画していたが出店はせず、店舗の収益力強化に注力

（単位：百万円）

	2012年11月期 （累計）	2013年11月期 （累計）	増減額	増減率
売上高	4,876	5,401	524	10.8%
経常利益	123	292	168	136.2%

販売台数(台)	8,766	9,763	997	11.4%
平均売上単価(円)	483,186	483,096	▲ 90	▲ 0.0%
平均粗利額(円)	108,400	115,077	6,677	6.2%

【駐車場事業】 2013年11月期（累計）業績の概況

◇今期方針 既存事業地の収益力向上と新規事業地の開発推進

■料金改定、事業地開発を推進し、堅調に推移

●売上高 前年同期比 10.0%増(70百万円)

●経常利益 前年同期比 64.2%増(19百万円)

(単位:百万円)

	2012年11月期 (みなし連結)	2013年11月期 (累計)	増減額	増減率
売上高	709	779	70	10.0%
経常利益	29	49	19	64.2%

(単位:車室)

	2012年 11月期末	2013年 11月期末
時間貸駐車場	1,315	1,388
月極駐車場	845	925
合計	2,160	2,313

(車室)



※子会社「パーク王」を本体に吸収合併(2012年3月1日付)

目的: 駐車場事業はバイクユーザーの利用整備の観点から引き続き重要な事業であり、「信用力の強化」、「収益性の向上」等を推し進める目的で、当該子会社を当社に吸収合併いたしました。



BIKE-O
&COMPANY

【個別】2013年11月期（累計）業績の概況

【セグメント別】2013年11月期（累計）業績の概況

【個別】2013年11月期（累計）財政状態

【個別】2014年11月期 通期見通し/配当について

【参考資料】今後の展開、会社概要、ビジネスモデル等

2013年11月期 貸借対照表

(単位: 百万円)

	2012年11月期 期末	2013年11月期 期末	増減
流動資産合計	3,554	3,946	392
現金及び預金	1,780	2,120	340
棚卸資産	1,223	1,224	0
固定資産合計	2,139	1,842	▲ 296
有形固定資産	1,044	837	▲ 207
無形固定資産	82	64	▲ 17
投資その他の資産	1,012	940	▲ 71
資産合計	5,693	5,789	95
流動負債合計	1,195	1,366	170
固定負債合計	333	288	▲ 44
負債合計	1,529	1,655	125
純資産合計	4,163	4,134	▲ 29
負債・純資産合計	5,693	5,789	95
株主資本比率	73.0%	71.3%	▲ 1.7%

注 主要な科目を抜粋して表示しております。

増減ポイント

株主資本比率71.3%と引き続き財務の健全性維持

資産の部

《流動資産の増加 392百万円》

現金及び預金340百万円、売掛金34百万円
繰延税金資産46百万円の増加等による

《固定資産の減少 ▲296百万円》

敷金及び保証金12百万円の増加と建物112
百万円、リース資産51百万円、ソフトウェア
30百万円、繰延税金資産85百万円の減少等
による

負債・純資産の部

《流動負債の増加 170百万円》

買掛金74百万円、未払消費税等70百万円、未
払法人税等37百万円の増加と未払金50百万
円、前受金33百万円の減少等による

《固定負債の減少 44百万円》

リース債務38百万円の減少等による

《純資産の減少 29百万円》

当期純利益94百万円の計上と株主配当による
利益剰余金124百万円の減少等による

(単位: 百万円)

	2012年11月期 (累計)	2013年11月期 (累計)
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	▲ 264	666
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 594	▲ 129
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 283	▲ 196
IV. 現金及び現金同等物の増減額	▲ 1,142	340
V. 現金及び現金同等物の期首残高	2,910	1,780
VI. 現金及び現金同等物の期末残高	1,780	2,120



BIKE-O
&COMPANY

【個別】2013年11月期（累計）業績の概況

【セグメント別】2013年11月期（累計）業績の概況

【個別】2013年11月期（累計）財政状態

【個別】2014年11月期 通期見通し/配当について

【参考資料】今後の展開、会社概要、ビジネスモデル等

■通期業績予想

(単位:百万円)

	2013年11月期 実績		2014年11月期 予想		増減額	増減率
	金額	百分比	金額	百分比		
売上高	20,150	100.0%	19,474	100.0%	▲ 676	▲ 3.4%
売上原価	9,259	45.9%	8,934	45.9%	▲ 324	▲ 3.5%
売上総利益	10,891	54.1%	10,539	54.1%	▲ 352	▲ 3.2%
販管費	10,770	53.5%	10,347	53.1%	▲ 423	▲ 3.9%
営業利益	120	0.6%	191	1.0%	70	58.7%
経常利益	269	1.3%	326	1.7%	56	20.8%
当期純利益	94	0.5%	177	0.9%	82	88.0%

■2014年11月期の取り組み

**将来的な事業規模拡大に向けた準備段階として、
事業環境に合わせた運営規模の最適化を図り、経常利益の増益を目指す**

- ・バイク買取事業において、事業環境に合わせた規模の最適化と利益の最大化を図る
- ・バイク小売事業において、事業運営基盤強化を推進し、店舗収益の安定化を図る
- ・駐車場事業において、事業地の収益改善・安定的な収益力の確保を図る
- ・全社の取り組みとして販売費及び一般管理費の抑制を継続推進する

■前提条件

- ・メインターゲットである手放し層(バイクを処分するのみ)のマーケットは縮小している可能性
- ・オークション市場の動向は前期下期と同程度の推移と想定
- ・競争を含む市場環境は大きな変化はなしと想定
- ・2014年4月の消費税増税による影響は軽微と想定

◇今期方針 中長期的に安定した収益が見込める体制の構築

- ・事業管理の強化
 管掌役員の本化・組織改編・店舗統廃合により、組織全体に横串を通し事業管理の強化を図る
- ・売上高、売上総利益
 販売台数は減少するが、平均売上単価・平均粗利額を増加させる
- ・効果的な広告宣伝活動の展開
- ・店舗統廃合による業務効率化推進(12月1日付で11店舗実施済)

	2013年11月期(実績)	2014年11月期(予想)	増減額	増減率
売上高	17,142	16,338	▲ 803	▲ 4.7%
経常利益	▲ 72	50	122	—

販売台数(台)	129,601	119,600	▲ 10,001	▲ 7.7%
平均売上単価(円)	129,608	134,400	4,792	3.7%
平均粗利額(円)	69,336	71,800	2,464	3.6%

【バイク小売事業】・【駐車場事業】 2014年11月期業績予想

【バイク小売事業】

◇今期方針 事業運営基盤強化を推進し、店舗収益の安定化を図る

- ・店舗収益力の安定化
 買取事業からの仕入を軸に、それ以外(店頭買取等)のチャネル開拓を推進し、商品仕入力を強化
- ・バイクライフアドバイザー・バイクテクニカルアドバイザーの質・量をとまなう業務レベル向上
- ・新規出店は1店舗

	2013年11月期(実績)	2014年11月期(予想)	増減額	増減率
売上高	5,401	5,844	443	8.2%
経常利益	292	250	▲ 42	▲ 14.6%

販売台数 (台)	9,763	10,700	937	9.6%
平均売上単価(円)	483,096	479,400	▲ 3,696	▲ 0.8%
平均粗利額 (円)	115,077	114,100	▲ 977	▲ 0.8%

【駐車場事業】

	2013年11月期(実績)	2014年11月期(予想)	増減額	増減率
売上高	779	803	23	3.0%
経常利益	49	25	▲ 23	▲ 47.5%

■ 基本的な考え方

業績・事業計画等を総合的に勘案し、安定的な配当を実施

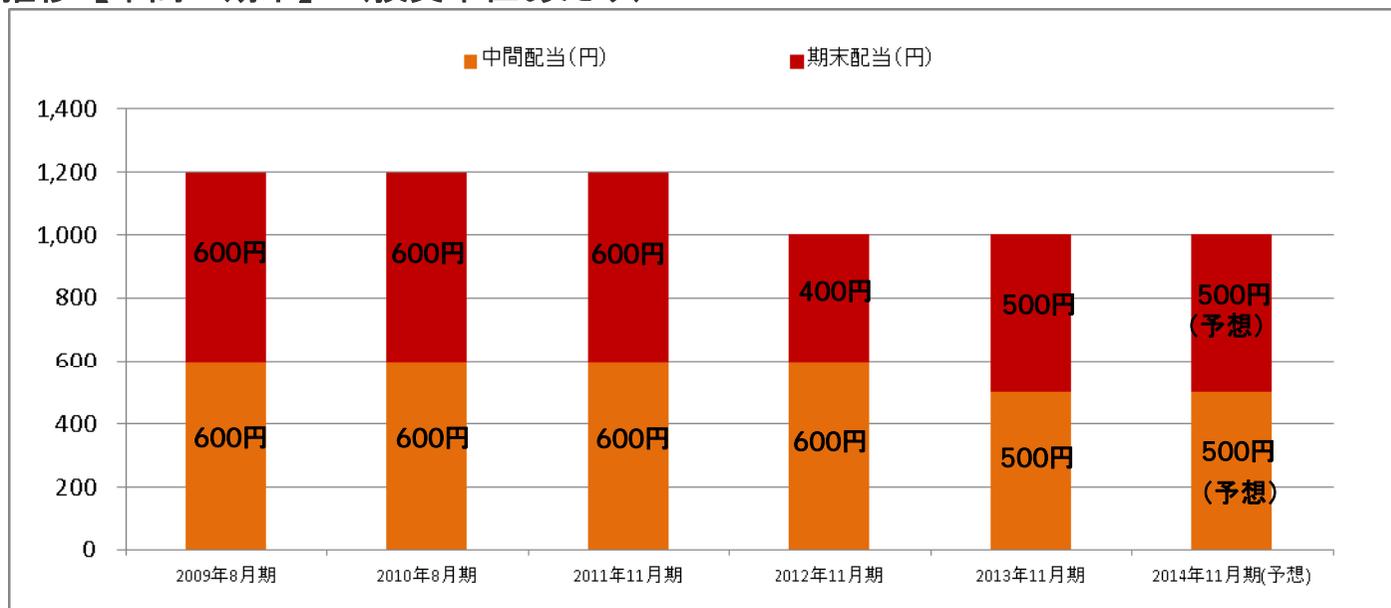
■ 1株当たり配当金額

2013年11月期年間配当(予想) 505円(実質(1単元・100株)配当 1,000円※)

※当社は6月1日を効力発生日として普通株式1株を100株に分割し、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用いたしました。

2014年11月期年間配当(予想) 10円(1単元(100株)配当 1,000円)

■ 配当推移【中間・期末】 (投資単位あたり)



注 2010年11月期については、決算期変更(8月⇒11月)にともなう3か月決算のため、記載を省略しております(ご参考:2010年11月期 期末配当金300円)



BIKE-O
&COMPANY

【個別】2013年11月期（累計）業績の概況

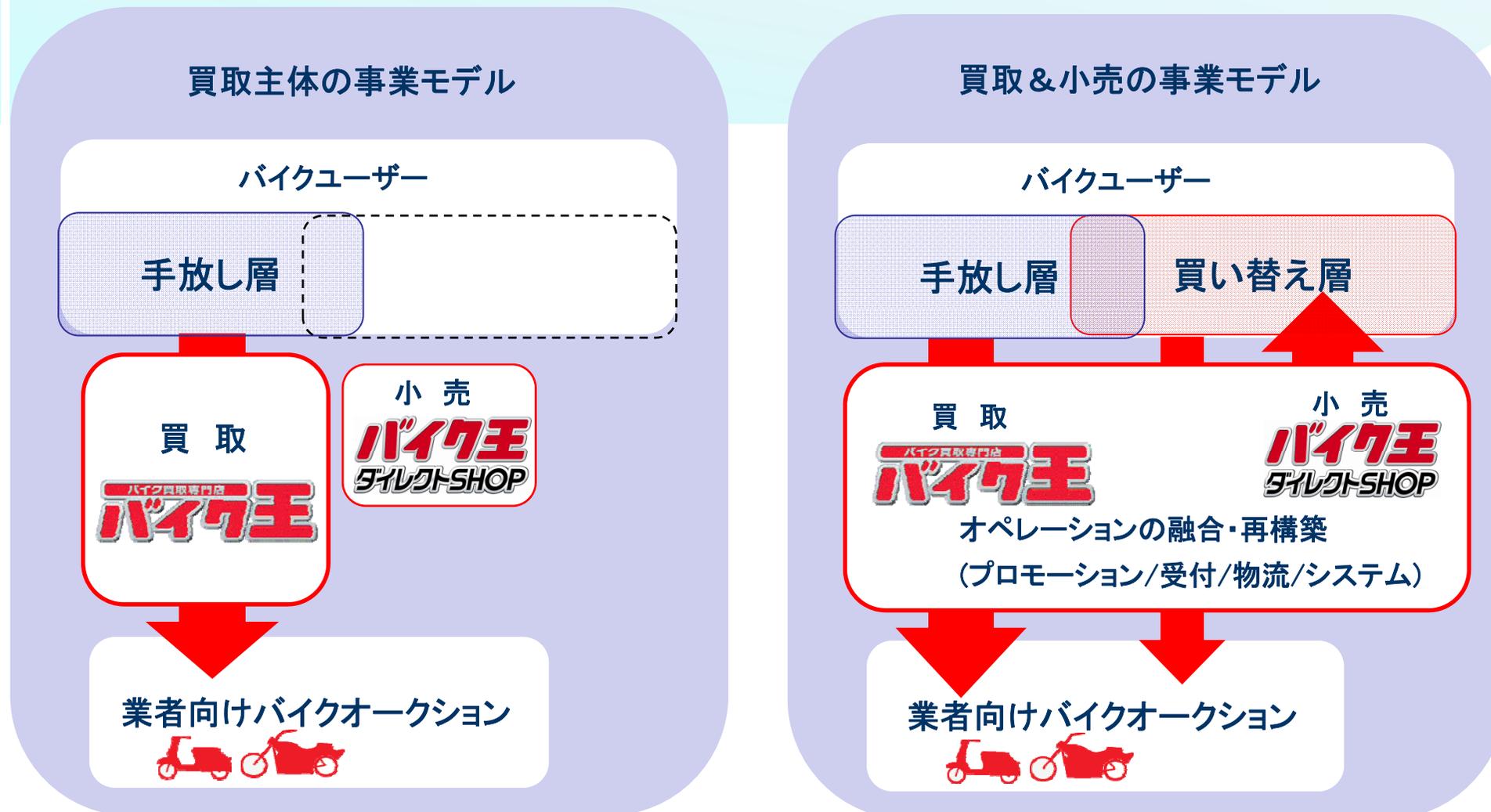
【セグメント別】2013年11月期（累計）業績の概況

【個別】2013年11月期（累計）財政状態

【個別】2014年11月期 通期見通し/配当について

【参考資料】今後の展開、会社概要、ビジネスモデル等

「買取主体の事業モデル」から「買取 & 小売の事業モデル」へ移行を図る



会社概要、沿革



会社名	株式会社バイク王 &カンパニー
本社所在地	〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-1-39 恵比寿プライムスクエア18F 2013年12月1日より本社機能に移転 〒108-0022 東京都港区海岸3-9-15 LOOP-X 13階
事業内容	バイクの購入から売却までをトータル プロデュースする流通サービス業
設立	1998年9月(創業1994年9月)
資本金	585百万円(2013年11月末日現在)
売上高	20,150百万円(2013年11月期)
従業員数	797名(2013年11月末日現在)
役員	
代表取締役会長	石川 秋彦
代表取締役社長	加藤 義博
取締役副社長	大谷 真樹
取締役	山縣 俊
取締役(社外)	齊藤 友嘉
常勤監査役	産形 昭夫
監査役(社外)	諏訪 浩
監査役(社外)	山口 達郎

	沿革
1994年	9月 前身となるメジャーオート(有)を設立 以後、7法人を設立
1998年	9月 (株)アイケイコーポレーションを設立 その後、グループ会社を順次統合
2002年	12月 初のロードサイド店舗「バイク王新潟店」(新潟 県新潟市)がオープン
2004年	2月 バイク王テレビCMがオンエア開始
2005年	3月 独自の基幹システム「i-kiss」が本格稼働 6月 ジャスダック証券取引所に上場 9月 初の小売販売店「i-knew」を出店
2006年	3月 駐車場事業を営む(株)パーク王を設立 8月 東京証券取引所市場第二部に上場
2008年	6月 小売販売ブランド「バイク王ダイレクトSHOP」を 立ち上げ
2009年	8月 バイク王が100店舗展開に
2010年	12月 決算期の変更(8月⇒11月)
2011年	3月 株式会社ユー・エス・エスおよび株式会社ジャパ ンバイクオークションとバイクオークション事業 に関する業務・資本提携を開始 4月 「株式会社ジャパンバイクオークション」を株式取 得(当社出資比率:30.0%)により関連会社化
2012年	3月 (株)パーク王を吸収合併 9月 商号変更(旧社名:(株)アイケイコーポレーション)
2013年	12月 本社機能を東京都港区に移転

■全国に広がるバイク王 &カンパニーのビジネスネットワーク (2014.1.14現在)

◆本社

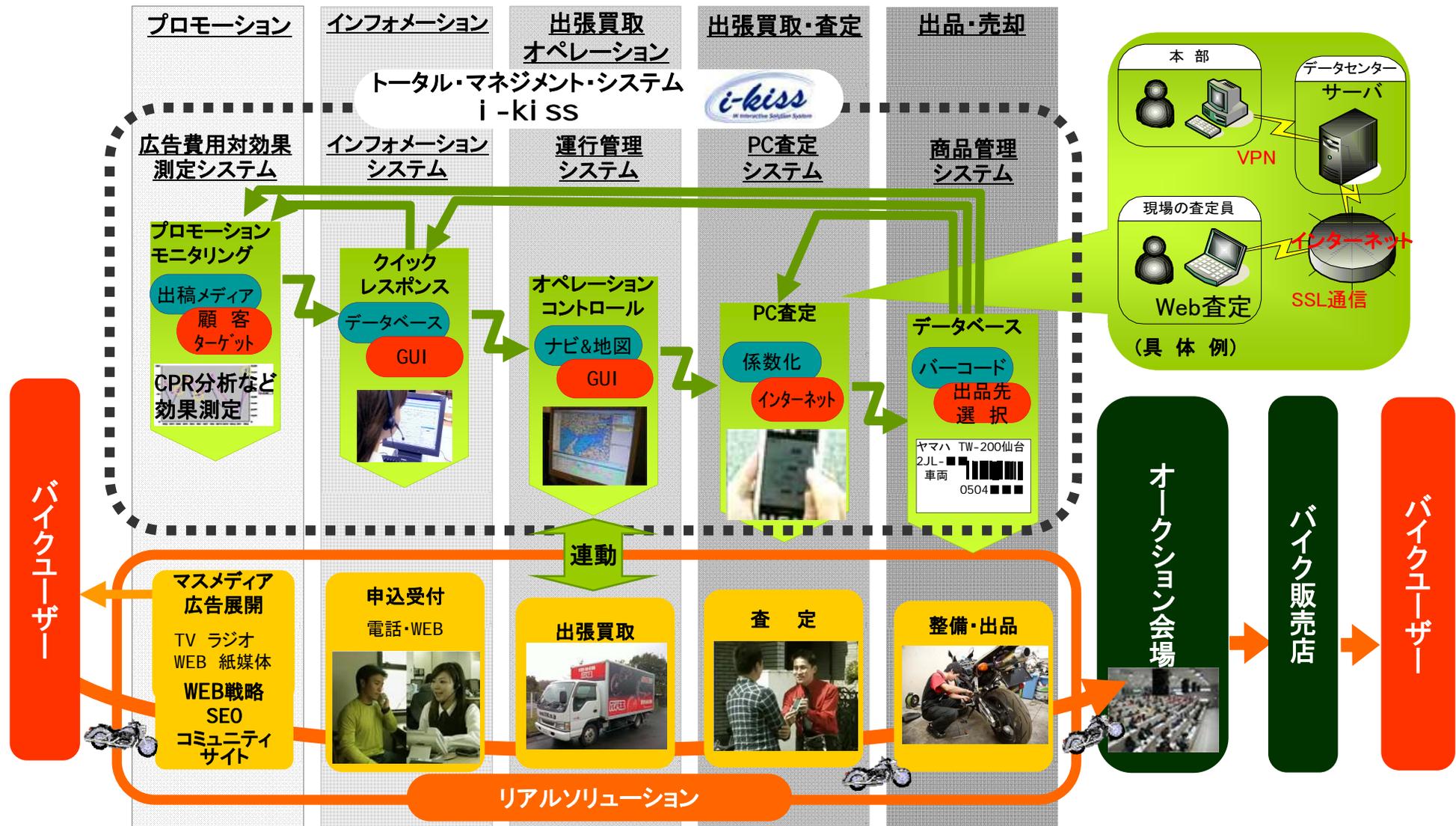
- ◆バイク買取店 バイク王 64店舗
- ◆バイク小売店 バイク王ダイレクトSHOP 11店舗

- ◆インフォメーションセンター<さいたま>
- ◆第二インフォメーションセンター<秋田>

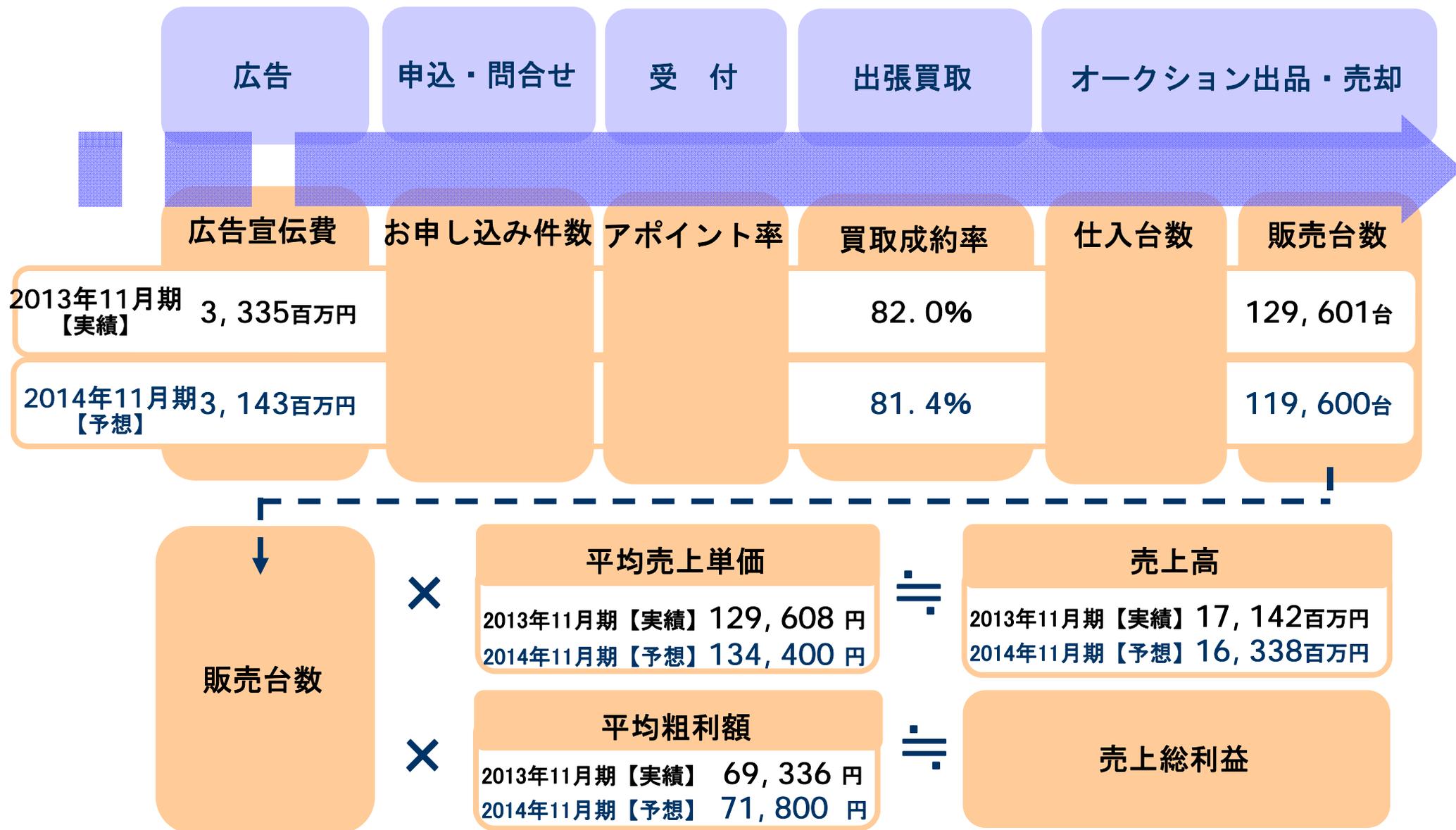
- ◆横浜物流センター
- ◆さいたま物流センター
- ◆筑波物流センター
- ◆神戸物流センター
- ◆福岡物流センター



■ビジネスモデルとそれを支えるITシステム

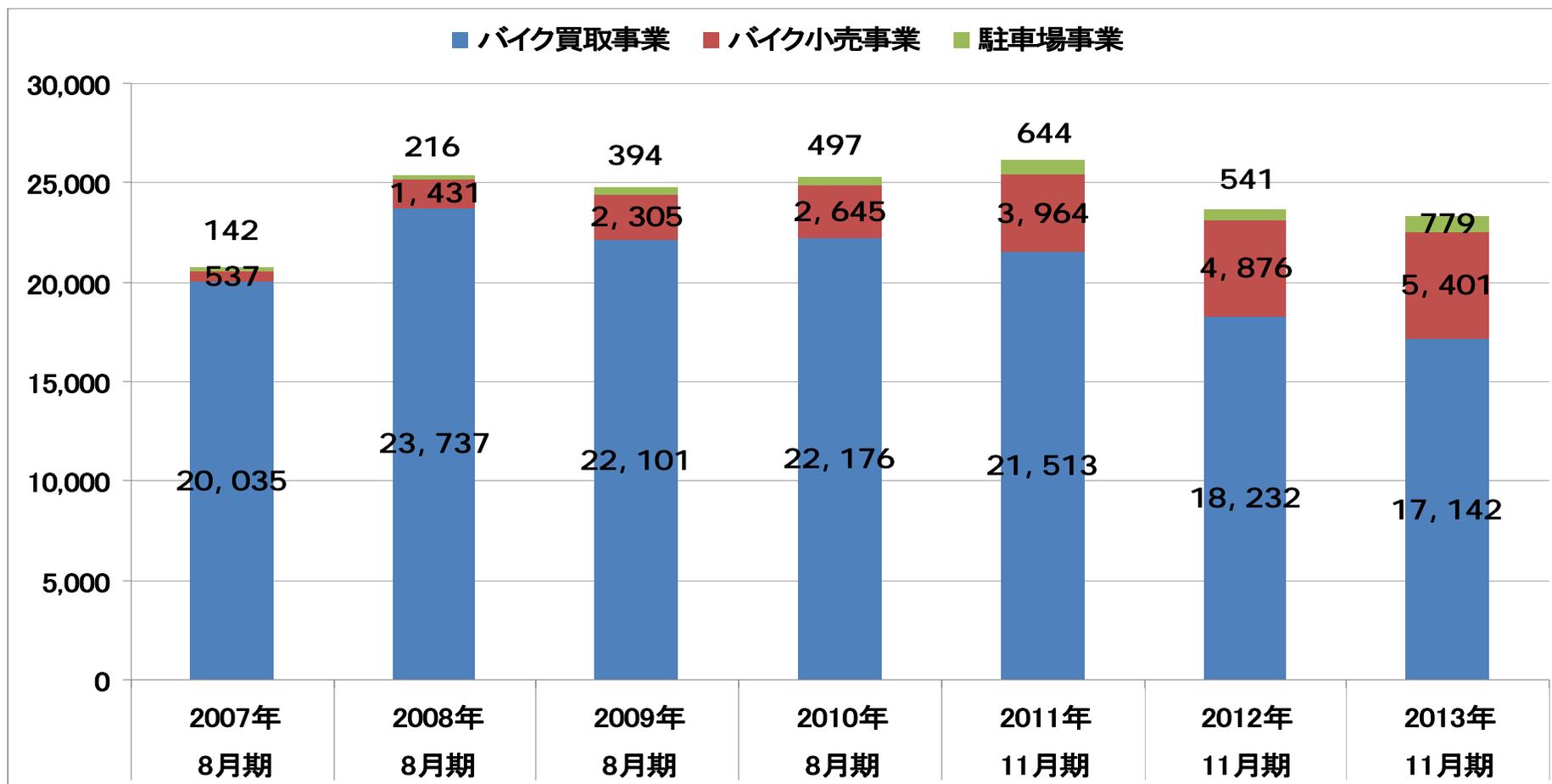


中古バイク買取販売のビジネスフロー



セグメント別 売上高推移

(単位:百万円)



注1 2010年11月期は決算期変更(8月⇒11月)にともなう3ヶ月決算のためグラフを省略しております。

注2 2010年11月期にセグメント区分の変更を行っておりますが、影響が軽微であるため、過年度遡及を行っておりません。

マーケット環境の概要①

■国内保有台数は全体として微減傾向も、比較的価値の高い原付二種以上の保有台数は微増傾向

保有台数の推移

(単位:千台)

		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
1 2 5 c c 以下	原付一種(～50cc)	8,134	7,902	7,694	7,448	7,154	6,899
	原付二種(51～125cc)	1,397	1,429	1,479	1,511	1,540	1,582
1 2 5 c c 超	軽二輪(126～250cc)	1,950	1,976	1,996	1,992	1,975	1,959
	小型二輪(251cc～)	1,452	1,478	1,505	1,524	1,535	1,542
合	計	12,935	12,787	12,675	12,477	12,205	11,985

(出所)一般社団法人日本自動車工業会/各年3月末日ベース

■125cc超の中古流通台数は概ね堅調。新車販売台数は二年連続で40万台を維持

中古流通台数の推移

(単位:千台)

		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
1 2 5 c c 以下		—	—	—	—	—	—
1 2 5 c c 超		551	571	558	553	541	687
合	計	—	—	—	—	—	—

(出所)二輪車新聞 ※2012年より小型二輪の集計方法変更

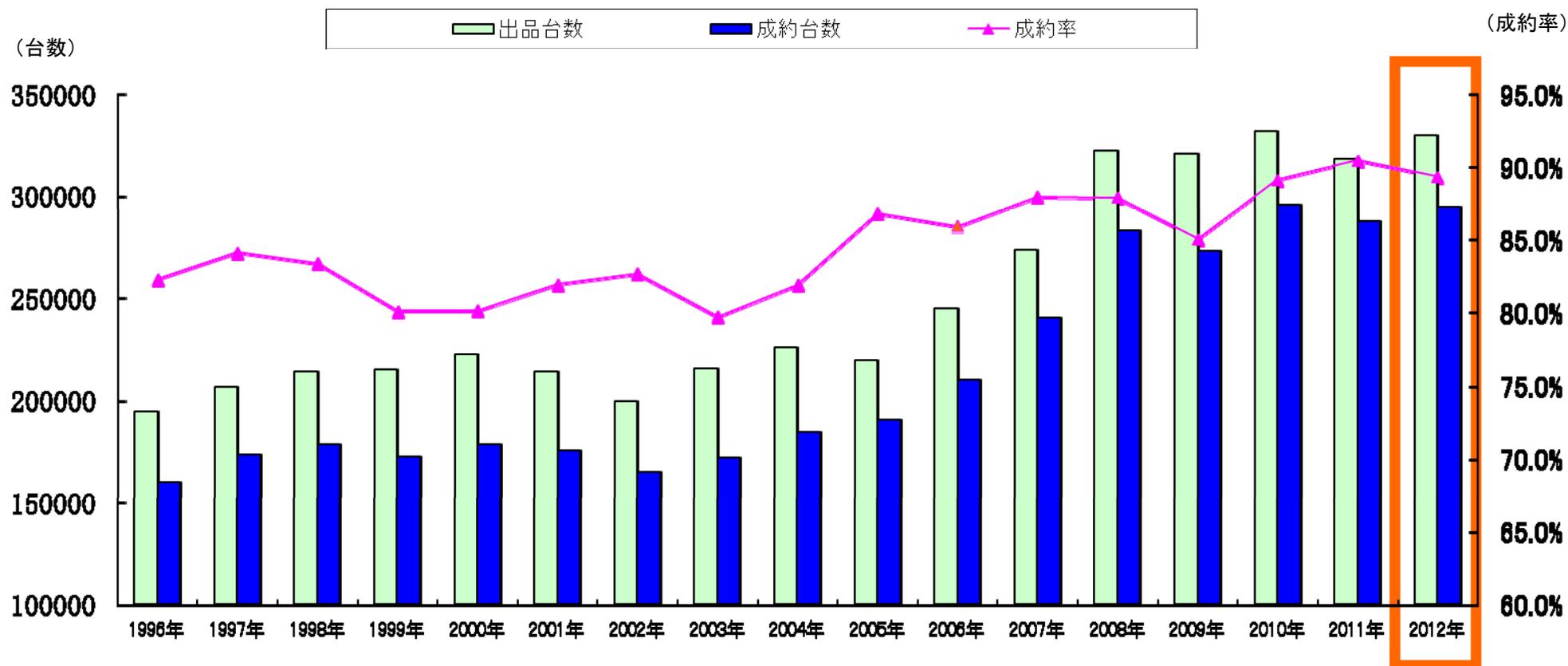
新車販売(出荷)台数の推移

(単位:千台)

		2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
1 2 5 c c 以下	原付一種(～50cc)	458	295	255	231	257	246
	原付二種(51～125cc)	100	120	65	96	95	90
1 2 5 c c 超	軽二輪(126～250cc)	86	55	37	27	31	39
	小型二輪(251cc～)	40	49	22	25	21	25
合	計	684	522	380	380	405	401

(出所)一般社団法人日本自動車工業会/暦年ベース

■ 当社の主要販売先であるバイクオークション市場の動向



出典：二輪車新聞 主なオークション総合統計（注 オークネット社の実績は含まれておりません。）

2011年の出品・成約台数は、横ばい。成約率は堅調

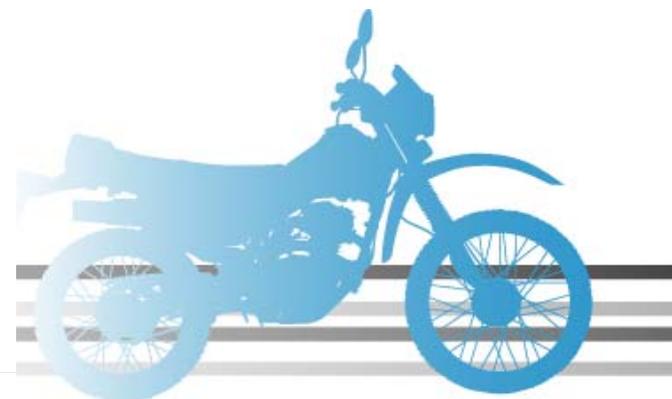
2012年の出品・成約台数は増加 成約率は横ばい



本資料は、当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。

本資料の作成は正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害について、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績が言及または記述されている将来見通しとは異なる結果となることをご承知ください。



【連絡先】コーポレートグループ 広報IR担当

TEL : 03-6803-8855

<http://www.8190.co.jp/company/>